

KOMOTO STYLE

Vol.22
2020 Autumn-Winter

お家を愉しむ。

「こだわりの家づくりを叶えた笑顔いっぱいのご家族」

「思い出の住まいで週末の畑仕事を満喫するご夫婦」

ふたつのシアワセをお届けします。

stay home
but we are happy.

※マスク、消毒、ソーシャルディスタンス等、新型コロナウイルス感染症予防に十分配慮して取材をさせていただきました。



このアイコンにスマホをかざすと愉快的な取材シーンを視聴できます。

あなたのスマートフォンに
無料アプリ「COCOAR2」を
ダウンロード、インストールしてください。

USER REPORT #01

ユーザーレポート【新築編】
新井邸



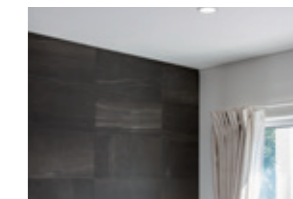
共働きの新井さんご夫婦は、お料理はご主人の担当。「キッチンもとても使いやすいです」



お気に入りのおもちゃを手に「ハイ、ポーズ」



モノトーンで統一されたおしゃれなリビング



リビングの壁に採用した「エコカラット」
柔らかいグラデーションで
おしゃれな雰囲気に



夢と理想を詰め込んだ、 スタイリッシュなモノトーンハウス

青空に映える白壁が印象的な新井邸。スッキリとした外観が、洗練されたイメージを生み出しています。出迎えてくれたのは新井さんご夫妻と、4歳の瑠璃愛(るりな)ちゃん、2歳の唯芽愛(ゆめな)ちゃんの仲良し姉妹です。完成からもうすぐ1年という新居の住み心地について、お話を伺いました。

私たちがおうち
毎日楽しく
遊んでるよ！
見てね！



姉妹で楽しく遊べる広々リビング



青空に映えるスッキリとした白壁

家族が増えるのを機に家づくりをスタート

新井さんご夫妻が家づくりを考え始めたのは、次女の唯芽愛ちゃんが、まだ奥様のお腹の中にいた頃でした。「それまでは実家に同居していたのですが、2人目が産まれるのをきっかけに、もっと広い家に住みたいと思うようになったんです。せっかく住まいを移るならマイホームを建てよう！と、家づくりを決めました」と奥様。そこで住宅展示場などに足を運び、いくつかのハウスメーカーを検討したものの、なかなか「これだ！」というものに巡り会えなかったのだとか。そんなとき河本工業の見学会に出向く機会があり、その場で「河本工業さんにお任せしよう」と決めたそうです。その理由について、奥様が「完全注文住宅というのが一番の決め手。間取りやフローリング、壁紙など、すべてを自

分達の好きなようにできるところに魅力を感じました」と教えてくれました。その後はご夫婦で何度も河本スタッフとの打ち合わせを重ね、理想の家づくりを進めていったそう。妊娠中の打ち合わせは大変なこともあったのでは…？と、奥様に尋ねると「全然！むしろ楽しかったですよ」と笑顔で答えてくれました。完成した新居は奥様のご実家の敷地内。「スーブの冷めない距離」であるご実家からは子育てのサポートも受けられて助かっているそうです。

モノトーンで統一したスタイリッシュなリビング

新井邸の大きな特徴のひとつが、モノトーンでスッキリとまとめられた内装です。中でもリビングは、フローリングや壁など白を基調としながら、ブラックの色使いが効果的なアクセントになっています。これは奥様の当初からのこだわりで、「家づくりを考え始めたときから、リビングには白と黒しか使わないと決めていました」というほど。たとえば、リビングの壁の一面にはブラックの「エコカラット」を採用。調湿機能に優れ、気になるニオイや有害物質を低減するといった機能性に加え、微妙な凹凸とグラデーションが柔らかなニュアンスを生み出しています。とは言え、床材や壁紙など、内装の一つひとつを決めていく過程では紆余曲折があったようです。「SNSで情報収集をしながら、良さ

そうなものを見つけるたびに営業の久保田さんに画像を見せて相談しました」と奥様。営業担当の久保田さんも「理想のイメージを画像で分かりやすくお伝えいただいたので助かりました」と語ります。「久保田さんは話しやすく何でも相談できました。『こんなのはどうですか？』と相談すると、良いものは良い、不要なものは必要ないと、正直に対応してくれるんです。曖昧にしたりごまかしたりすることがなく信頼できました」と奥様。隣でご主人も「内装などは基本的に妻に任せていましたが、打ち合わせでは2人でいろいろな相談に乗ってもらいました。久保田さんには間取りも何度もご提案いただき感謝です」と笑顔で語ってくれました。



次のページにも
私たちがおうちが
あるよ！



収納家具がなくても家中スッキリ!

まだ小さなお子さんが2人いるのに、新井邸はどこともスッキリ。リビングにも収納家具は見当たらないにもかかわらず、ゴチャついたところが全くありません。

その秘密は、まず、キッチンに設けられた収納スペースです。吊り戸棚などのほか、キッチンカウンターの下にもたっぷり収納を確保。日常使いのものも手早く取り出してサッと片付けることができます。

また、瑠璃愛ちゃんと唯芽愛ちゃんの洋服やグッズなどは、廊下に設置した扉付きの可動棚に収納。こちらも広々スペースで、お子さん達2人分のをしまってもまだまだ余裕がありそうです。お子さん達も、朝起きるとこの棚から自分でお気に入りの洋服を選び、身支度をしているそうですよ。

一方、日常生活で頻繁に使用する掃除機などは、リビングの中に専用の置き場所を設けました。壁で死角をつくり、リビングやキッチンから掃除機が見えないようにする工夫は、奥様のアイデア。さらに、奥様が「どうしても欲しくて、久保田さんにワガママを言ってつけてもらいました」と話してくれたのが、キッチン脇のリモコンニッチです。インターフォンなどのリモコンがスッキリとまとまるうえ、スマートフォンの充電もできます。久保田さんが「実は凹ませる壁がなかなかなくて。いろいろ検討して、唯一可能だったこの場所に設置しました」と教えてくれました。家中スッキリのコツは、デッドスペースを含めた空間の有効利用にあったようですね。



キッチン脇のリモコンニッチ。スプレーボトルの収納や、お子さんの保育園のお便りを貼るスペースにもなっています



営業担当の久保田さんはお子さん達とも仲良しです



広い洗面脱衣所は洗濯物も干すことができ便利。正面の壁紙は淡いグレーを選び、色のトーンを変化させています



見えないところに“あえて”のこだわり

また、奥様が「子ども達と一緒に入りやすいように絶対広くしたかった」というのが浴室です。白が基調のほかのスペースとは打って変わって、浴室は黒がベース。大理石調の床が落ち着いた高級感を醸し出しています。また、洗面脱衣所の壁は実はラメ入り。しかも、壁の一面だけ淡いグレーのラメ入りクロスを選ぶこだわりぶりです。「洗面所の扉を開めれば表からは見えないけれど、私たち家族は毎日目にする場所。そういうところだからこそ“好きなもの”を妥協したくなかったです」。さらに、見えない場所へのこだわりは2階の子ども部屋にもありました。瑠璃愛ちゃんと唯芽愛ちゃんのために1部屋ずつ用意した子ども部屋は、クローゼットの中がポップなハイヒール柄!「この柄に一目惚れしたものの、少し派手なので室内では使える場所がなくて。思い切ってクローゼットの内側に使っちゃいました(笑)」と奥様。子ども部屋の天井は蓄光クロ

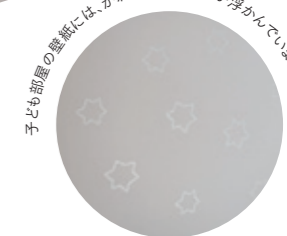
スで、暗くなると光るのだとか。お子さん達がもう少し大きくなったら、この素敵なお部屋で楽しい時間を過ごすのでしょうね。一方、ご主人のこだわりは2階にある自室です。濃い目カラーのアクセントクロスや照明、コンセントの位置など、ご主人の好みを反映した内装となっていました。リビングの大きな窓からは明るい陽の光が差し込み、そのまま外のタイルデッキに出ることもできます。夏には窓を開放して、家族みんなでデッキでのバーベキューを楽しんだそう。「子ども達の成長に合わせてインテリアもおしゃれにしていきたいですね。気に入ったラグを敷いたりカウンターチェアを置いたりして、ゆっくりくつろげるスペースもつくりたいです」と奥様。“好き”がギッシリ詰まった住まいで、これからも家族の笑顔が広がっていきそうですね。



営業担当の久保田さんと一緒に。良好なコミュニケーションが理想の家づくりへとつながりました



子ども部屋のクローゼットの中は、ポップなハイヒール柄



子ども部屋の壁紙には、かわいらしい星柄が浮かんでいます

STYLISH MONOTONE HOUSE



家づくりの打ち合わせはどのように進めるの?

営業 久保田祥平

私が常に心がけているのは、家を建てるご家族のニーズに沿ったご提案をすること。打ち合わせも、お客様のペースに合わせて進めるようにしています。希望のイメージやご予算などをお伝えいただければ、間取りを数パターンご提案することも可能。最近では間取りを立体的なデータで確認できるツールもあるので、理想のゴールを共有するためにも気になる点は何でもお話しください。こだわりの詰まった家づくりを、全力でサポートします!



スマホをかざしてね!



パパとママのこだわりが、いっぱい詰まったおうちだよ!

USER REPORT #02

ユーザーレポート【リフォーム編】
上岡邸



家の前の畑ではご夫婦が育てたたくさんの野菜が、「収穫が一番の楽しみです」



外観の雰囲気も一新。リビングの外側にあたる建物右側の外壁は張り替え、
ほかは塗装を行いました

家族の願いと 思い出をつなげるリフォーム

築50年という奥様のご実家を素敵にリフォームした上岡さんご夫妻。約1週間前に工事が終わったばかりというお宅に何うと、「実は先ほど、河本工業さんに縁側の物干しを設置してもらったところなんです。ですから今日が本当のリフォーム完成日ですね」と、ご夫妻が笑顔で出迎えてくださいました。そんな完成ホヤホヤのリフォームについて、たっぷりとお話を聞きました。

昔からの土間と 和室が開放的なリビングに

この住まいが建てられたのは50年ほど前。現在は、畑仕事を趣味とするご夫妻にとって癒しの場所になっています。

玄関に入ってまず目を惹くのが、開放感あふれるリビングです。白が基調のスッキリとした空間に、落ち着いたある応接セットや家具の木目がベストマッチ。大きな窓から入る陽光が、明るい雰囲気を生み出しています。「実は、ここには広い土間があったんですよ」と奥様。続いてご主人も「土間を上がると掘りごたつのある和室でした。その奥に、磨りガラスの戸を隔てて台所があったんです」と、教えてくれました。今回のリフォームで、土間と和室は洋風のリビングルームに大変身。

リビングの隣のキッチンも、引き戸を開けば、広々としたひと続きのリビングダイニングルームになります。また、リビングに設けられた収納扉はご主人のアイデア。扉を開けると階段下収納とつながっており、中のものをスムーズに出し入れすることができます。「前は土間や和室、障子などがあって、室内も何となく暗いイメージでした。それがリフォームで本当に明るくなって、快適にくつろげるスペースになりましたね」とご主人。以前の室内の様子が想像できないほど、おしゃれで開放的な空間に生まれ変わりました。



土間と和室だったスペースが、明るく開放感あるリビングルームに

お父様のご遺志を叶えたリフォーム

もともとは奥様のご実家だったという上岡邸。リビングにある応接セットは、かつては2階に置かれていたそうです。実は、今回のリフォームは、2年前に亡くなったお父様のかねてからの希望でもあったのだとか。「父はずっと前から『2階の応接セットを1階に移動したい』『悪くなっている天井や廊下を直したい』とっていました。ほかのリフォーム会社に問い合わせたこともあったのですが、『柱があるからできない』と断られてしまっ」土間と和室だった1階フロアには何本も柱があり、そのうちの1本は、ちょうど現在のリビングの中央あたりに位置していました。そのため、応接セットを置ける広いスペースが取れず、奥様も「リフォームは無理かもしれない」と思っていたそうです。「そんなとき、河本工業さんでリフォーム工事

をしたことのある知人に青木さんを紹介してもらいました。連絡を試みたらすぐに来てくれて『できますよ』とってくれたんです」と奥様。「お家を拝見すると、しっかりと建てられていることが分かりました。そこで、残せる部分をできるだけ残しながらご希望を叶えるリフォームをご提案しました」と施工担当者の青木さん。結果、1階フロア中央にあった柱は取り除き、2階を補強して建物全体の強度を維持することに。構造上取り除くことができない柱には壁と同じクロス巻き、違和感なくスッキリと仕上げました。これにはご夫妻も「こんなに素敵な仕上がりになるなんて想像もつきませんでした。きっと父も喜んでいてと思います」と、大満足の様子です。

仕上がり
素敵すぎて、
父も喜んでいて
思います



これからは
この家で過ごす時間
がもっと増えそうです



思い出を残し、未来につなぐ

もともと応接セットが置かれていた2階の洋室は壁紙を貼り替え、パツと明るく様変わりしました。しかし、同じく2階の和室にはあえて手を加えなかったといいます。その理由を、奥様が「青木さんが『船底天井など凝った造りになっているから、なくしてしまうのはもったいない』と言ってきて。じゃあ、ここはそのままにしておこうと思いました。昔の面影が残っていると、私も何となく嬉しいですしね」と教えてくれました。その言葉の通り「まだ使えるものはできるだ

け残しました」と、青木さん。たとえば、キッチンのリフォームで不要になったかつての蛇口は、屋外の洗い場に再利用。玄関に敷かれたタイルも以前のものをそのまま残し、インテリアのおしゃれなアクセントになっています。一方で、ご夫妻が「痛みが気になっていた」という天井や廊下の床は、きれいに張り替えてシンプルで温かみある雰囲気に。古き良きものを残しつつも快適さを叶えるリフォームとなりました。



リフォームでキッチンも使いやすく。
「お料理や片付けもしやすいですよ」と奥様



河本スタッフとはこまめに打ち合わせを繰り返したそう。インタビュー中のチームワークもバッチリ

細かい気配りで暮らしやすさがアップ

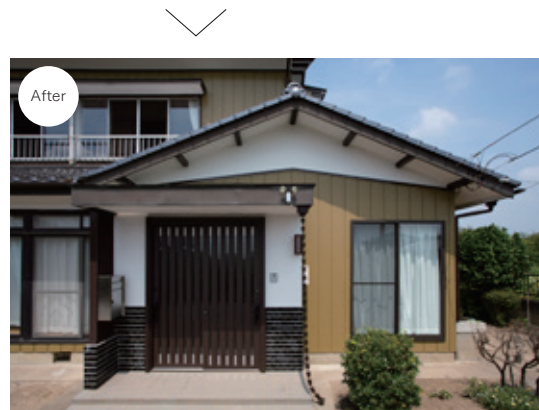
「青木さんには工事中、こちらが気付かない細かい点にも配慮してもらえて助かりました。

職人さん達の連携も素晴らしかったです」と語ってくれたのはご主人です。「電気のスイッチやコンセントの場所なども使いやすいように提案をしてくれました。実際に暮らしてみて快適さに驚いています」続けて奥様も「青木さんをはじめ職人さん達も、優しく気さくな方ばかり。何でも話やすく、つい追加でいろいろお願いをしてしまいました」と語ります。

奥様が「お気に入りスポット」と教えてくれたのが、お手洗いに設置された棚です。「壁に開いていた穴が気になって相談したら、パパッと棚

をつけてくれたんです。細かい希望にもすぐに対応してくれてありがたかったですね。棚には奥様お手製の美しいプリザーブドフラワー作品が飾られ、心癒されるコーナーとなっています。リフォームによって断熱性もアップし、ご夫妻は「この夏はとでも快適でした。冬も暖かく過ごせるだろうと今から楽しみです」とニコリ。早速遊びに来たお孫さんからも、「ここに住みたい!」と言うほど好評だったそうです。

「これからはもっとこの家で過ごす時間を増やして、畑仕事にも力を入れたいですね」とご主人。趣味や家族の団らんに、充実した素敵な時間ももっと増えていきそうです。



玄関の戸はスタイリッシュで防犯性の高いものにチェンジ。窓も大きくなり、室内に陽の光がいっぱい差し込みます

スマホをかざしてね!



築年数の古い家を リフォームしたいのですが…

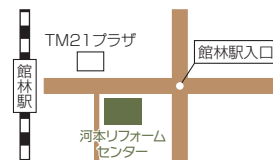
河本リフォームセンター 青木 正知

「築年数の経った実家を子ども家族が住むためにリフォームしたい」「昔ながらの家をバリアフリーにして暮らしやすくしたい」というご相談をいただくことがよくあります。ご家族によって生活スタイルはそれぞれ異なりますから、住む方に喜んでいただけるようなご提案を心がけています。リフォームにはさまざまな方法や選択肢があります。「家が古いから建て替えるしかないかもしれない」と思っても、まずは一度ご相談ください。



河本リフォームセンター

お気軽にお立ち寄りくださいませ。
受付時間 9:00~17:00



河本工業株式会社

〒374-0057 館林市北成島町2544

新築のご用命はこちら

TEL.0276-72-3325

FAX.0276-72-3327

komoto-style.jp

河本工業 住宅

検索

リフォームのご用命はこちら

☎ 0120-75-9188

本情報誌への掲載や出演のお問い合わせは info@coiki.net まで

POSTSCRIPT

なかなか収束が見えない新型コロナウイルス禍において、新井様・上岡様ご両家の皆様には取材ご協力いただき誠に有難うございました。これからが真のお付き合いが始まりますので何卒宜しくお願い申し上げます。現在は「With コロナ」「コロナと共生」を余儀なくされており、「テレワーク」・「リモートワーク」等働き方も変化しております。また、住宅環境も「在宅ワーク」・「抗ウイルス住宅」等「After コロナ」を見据えた「家族の健康と家計を守る住居」を新築・リフォーム共々、変化する住まい方に積極的なご提案をさせていただいております。新型コロナウイルスは、まだまだ私たちの身の回りの生活や社会情勢を強く影響させておりますが、何よりも早期収束を心よりお祈り申し上げます。

KOMOTO STYLE 編集委員会